

わたしがいちばん

音羽中・3 近藤 未来

わたしがいちばん真面目にやっている

一緒に入部した他の二人よりも

中学校一年生の春

卓球部に入った

誰よりも練習したはずなのに
ランキング戦は最下位だった
すごく悔しかった

わたしがいちばん成長している

卓球部の誰よりも

誰よりも真剣にやったはずなのに

また負けた

また最下位だった

二年生最初のランキング戦

卓球を少し嫌いになった

わたしがいちばん考えている

部活動の後輩たちのことを

まとめようとしているのに

部としてそろわない目標と意識

話し合ってもそろわない意見

先輩として

部長として

自信はどんどんなくなった

わたしがいちばん期待している
部員の誰よりも

成長できると信じている

話して分かった勝ちたい気持ち

教えてくれてありがとう

飛び跳ねるほどうれしかった

わたしがいちばん見ていなかった

周りの人のことを

しっかり見ていると思っていたのに

話してみるまで気づかなかった

試合の日に見せた真剣な顔

まるで別人のようだった

強がって笑顔で過ごしても

その手は少し震えていた

わたしがいちばん負けず嫌い

仲間がつかないだ勝利のバトン

わたしが負ければみんなも負ける

つらいことも多かったけれど

団体戦で初勝利

わたしがいちばんだったわたし

少しは成長できたかな